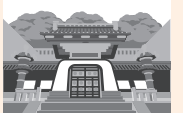


ご存じですか！文化財

95

「正講先達富士登山成就記念碑」

市指定有形民俗文化財 平成16年3月8日指定



問合せ
生涯学習課
(☎0480・62・1223)



日本の代表的な山といえる富士山は、その価値を世界的にも認められ、平成25年、世界文化遺産に登録されました。今日その登山者は多く、長蛇の列を成しています。

さて、江戸時代のこと、富士山に集団で登拝する信仰がとて盛んで、富士講(浅間講)と呼ばれていました。この講は先達を中心に組織されましたが、先達とは信者を霊山や寺社に導く修験者などのことです。

正能に組織された講のひとつに㊤講の青木先達家がありました。青木先達家は、「一行初

山」の行者名を名乗る半右衛門を講祖に、元禄12年(1699)には富士登山33回の大願を成就しました。以後、二代「誠行二山」、三代「三行鏡山」、四代「奉行清山」と続いて、五代「正行信山」、六代「正行生山」の頃には傘下に4、5千人を有する関東屈指の大講社となりました。

正能の諏訪神社境内にある石碑には、嘉永5年(1852)10月26日の銘があり、高さ4・12mあります。この碑は、五代目の富士登山45回と、初代から六代までの代々が33回の富士登山成就を記念したものです。台石には建碑に関係した村名や人名が刻まれ、その影響力は五十里(約200km)四方に及んだといえます。



㊤講先達富士登山成就記念碑